



季節は変わり、爽やかな秋空が広がるようになりましたね。

美濃市片知の山間に、この岐阜県動物愛護センターが開所して半年が経ちました。

多くのメディアで取り上げられ、県内はもちろん、県外からも沢山の方が施設を訪問されました。

7月から8月にかけては、夏休みの課題研究に愛護センターを選んでくれる子供たちが多く、センターの職員にいろいろな質問を投げかけ、小さな命を繋ぐためには、まず自分が学習しそれを伝える事が大切なのだと学んでいました。

10月30日現在、犬20頭・猫36頭の計56頭が、新たな家族と出会い、各家庭での新生活をスタートしています。里帰りのように犬猫を連れてセンターを訪れてくださる家族も沢山います。飼い犬・飼い猫になった彼らの姿は、ここでの姿とはまた違い、いきいきと自信に満ちたように見え、とても嬉しく思います。

卒園生の紹介



7月30日 夏休みの環境学習を行いました



愛知県知多郡武豊町から4年生以上の小学生とその保護者の方、約40名が施設の訪問、見学にきました。動物愛護センターでは何をしているのか、どこから犬猫がやってくるのかなどを学びました。説明のあと、動物愛護センターにいる犬猫を実際に見て「かわいいね」「良い飼い主さんが見つかるといいね」と、話していました。



8月12日に愛護教室《風船で動物を作ろう!》を行いました。



夏休み企画!という事で、8月12日にバルーンアートで犬やウサギを作りながら、その動物の特徴を学びました。「われそうでこわい」と、片目をつむりながらも、キュッキュッと細長い風船をねじって曲げて、表情はとても楽しそうです。お子さんも楽しんでいましたが、それ以上に大人は真剣そのもの!「足の長さが違う」「しっぽが長すぎた!」と、何度も挑戦してくれました。

開館時間 9:30-16:30 休館日 毎週火曜日・祝日・12/29~1/3
美濃市片知593 電話 0575-34-0050 FAX 0575-34-8228

外部講師の先生を招き、《しつけ方教室》を行いました。

8月 桜ヶ丘動物病院 松本裕美子先生

飼い主のモラルとマナー・しつけの必要性・褒めながら行う具体的なしつけ方法



県内から5組の方が愛犬と共に参加しました。実際に愛犬とアイコンタクトを取る練習をしたり、ひもを使っての簡単な遊びから、ストレス発散・運動をさせる方法を体験しました。参加者は「楽しみながらコミュニケーションがとれる」と嬉しそうでした。



9月 NPO法人「人と動物の共生センター」理事長 奥田順之先生

しつけの必要性・問題行動の抑制方法・具体的なしつけ方



犬の社会化期や、どうして犬は吠えるのか？などの、犬の習性を学びながら、《しつけ方》と《愛犬との絆の築き方》を学びました。後半は実際にドッグランで愛犬を自分に注目させる、落ち着かせる、といった、しつけのタイミングを学びました。



毎月2回のペースで行っている《しつけ方教室》ですが、センター職員による教室と、外部講師による教室の2種類があります。センター職員による教室は、犬のしつけ方の基本的な方法や考え方を学ぶことができ、外部講師による教室は、問題行動の治し方など、より高度なしつけ方を学んでいただけます。愛犬と一緒に参加してくれた皆さんは、それぞれ違った悩みをお持ちですが、目指すものは同じで、人と動物が幸せに楽しく暮らすために必要なしつけ方を学んでいます。犬が人間社会で生きていくためには必ずしつけが必要になり、それは飼い主の責任でもあります。しつけはすぐに結果がでるものではなく、そのやり方がすべての犬に当てはまるわけでもありません。色々な方法を試しながら、根気よく習慣づけていくこと、そして飼い主自信がリラックスする事も大切になってきます。

10月12日 動物愛護センターフェスティバルを行いました

当日はたくさんのお子様と親御さんと賑わいました。まずは館内の様々な場所に張られている動物クイズに挑戦してもらいました。クイズのあとは犬猫の迷子札を作ったり、せっけん粘土で犬や猫を作ったり、大人も子供も一緒に楽しんでいました。自分や猫の心臓音を聞いて数える体験では、「猫の心臓がこんなに早く動いているとは思わなかった！」と多くの子が驚いた表情でした。ミニモも遊びにきてくれましたよ♪

